



ボッチャ

パラリンピック

重度の脳性まひなど四肢に障がいがある選手がプレーします。ジャックボールと呼ばれる白いボールを的にして、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競います。競技は男女の区別なく、個人戦と団体戦(2対2のペア戦と3対3のチーム戦)があります。

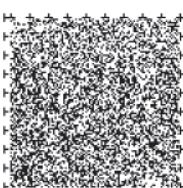


ポイント

スローイングボックス

選手、アシスタント、ランプすべてがボックス内に収まらなければならぬ。

● 使用するコート ●



知っておこう

アシstant

常に選手の方を向き、コートを背にしており、振り返ってコート内を見るることはできない。選手の指示通りにランプを動かす。



重い障がいでボールを投げることができない選手は、「ランプ」と呼ばれる投球補助具を使い、アシstantの補助を受けて投球します。

選手はアシstantに指示をしてランプの角度や方向を調整します。



手が使えない場合は、「リリーサー」と呼ばれる補助器具を使ってボールを転がす。(頭部や口にリリーサーを装着して投球を行う選手もいる)。

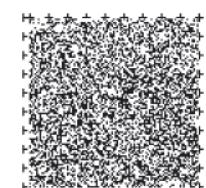
先端部分にボールを固定し、手やリリーサーを使って押し出す。



高さの異なる部品を取り外しすることで簡単に高さの調整ができる、バリエーションのある投球が可能となる。



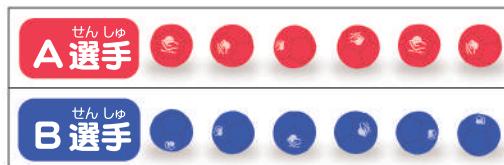
方向や角度を調整することでボールの転がる向きやスピードを変化させる。



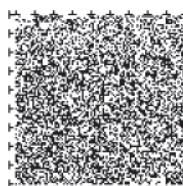
ルール

試合の流れ

- 1 兩選手(ペアやチーム)が
6個ずつのボールを使用する。



- 2 先攻側(赤)が
ジャックボール(白)を投球し、
続けて1投目を投球する。



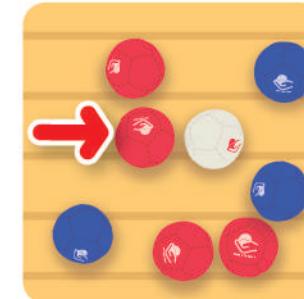
- 4 その後、ジャックボールからより遠い位置にボールを投げた側の選手が次の投球を行う。

<例1>



青の方が白に近いため、
次は赤側の投球。

<例2>



赤の方が白に近いため、
次は青側の投球。



距離の判断が難しい場合
は専用の道具を使って距
離を測定。

- 5 赤、青ともに6球ずつ投げた時点(1エンド終了)で得点を計算。
個人戦とペア戦は4エンド、チーム戦は6エンド行い、合計点を競う。

